

漁海況通信

長崎県総合水産試験場 漁業資源部 海洋資源科
 〒851-2213 長崎市多以良町 1551-4 電話 095-850-6304 FAX 095-850-6346
 ホームページアドレス <http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/>

トビウオ漁況予報

「今年のトビウオ(小トビ)の来遊量は平年並みで前年を上回るでしょう」

予測の考え方

- 本県において、トビウオ類は5～7月に主に定置網で産卵親魚が漁獲され、9～10月に船曳網や定置網でその年生まれの未成魚(小トビ)が漁獲されます。
- 漁獲されるトビウオ類は、春～夏にはホソトビウオ(丸トビ)とツクシトビウオ(角トビ)の2種ですが、秋にはこれにホソアオトビが加わった3種となります(図1)。
- 秋に漁獲される小トビは、初夏に九州北西部から日本海西部の海域で生まれ、成長しながら南下していく途中の群と考えられます。
- これまでの研究から、小トビの漁獲量の変動要因として、産卵親魚の量や日本海西部海域の水温、8月の降水量、漁期中における北よりの風の日数などが挙げられます。

予測の根拠

○産卵親魚の量

山口県標本地区における定置網でのトビウオ類の漁獲量で、角トビが少なく丸トビが多いと本県への小トビの来遊量は多くなる傾向があります。今年5～6月の山口県標本地区のトビウオ類の漁獲量は、角トビでは平年を下回り、丸トビでは平年を上回りました。これらのことから本県への小トビの来遊量は全体としては多くなると考えられます。

○水温と8月の降水量

日本海西部海域の水温が高く、8月の降水量が少ないと小トビの漁獲量が多い傾向があります。日本海西部海域の水温は平年並みであり、九州北部(山口県含む)の8月(8/8～9/7)の降水量も平年並みである可能性が高いと予報されています。

○漁期中における北よりの風の日数

漁場形成に影響を与える漁期中における北よりの風の日数は、気象庁の九州北部地方の9月中旬までの長期予報で気温が高くなる可能性を考慮しました。

以上のことから、**今年の小トビの来遊量は『平年並みで前年を上回る』**と予測しました。

上回る	並み	下回る
平年の1.2倍以上	平年の0.8～1.2倍	平年の0.8倍以下

【参考】本県標本地区におけるトビウオ類(小トビ)漁獲量(図2)

※平年は過去5カ年平均値：約119トン

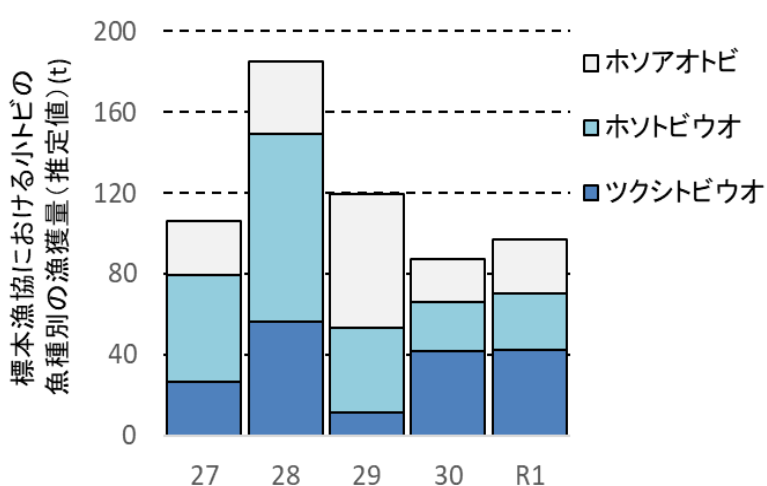


図1 本県標本漁協におけるトビウオ類(小トビ)の魚種別漁獲量(推定値)

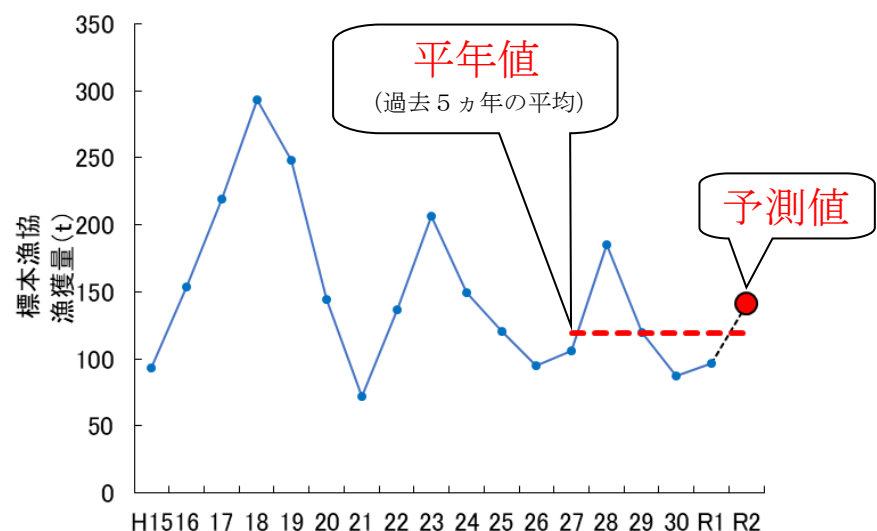


図2 本県標本漁協におけるトビウオ類(小トビ)漁獲量